

2009年2月12日実施

解 答

1 (B)	2 (A)	3 (C)	4 (D)	5 (B)	6 (A)
7 (A)	8 (D)	9 (A)	10 (B)	11 (D)	12 (C)
13 (B)	14 (C)	15 (C)	16 (C)	17 (C)	18 (D)
19 (D)	20 (B)				

1. 「すでにあなたが寝ていると知っていたら、電話をしなかっただろうに」

► Iの後がknownと過去分詞形になっていることから、仮定法過去完了のIf I had knownが倒置されていることを見抜く。

ifを省略した仮定法

仮定法のif節のifを省略すると、後ろのSVは倒置され、疑問文と同じ語順になる。

ただし、主語の前に置かれるのは原則としてwere/had/shouldの3つに限られる。

If I could fly → *Could I fly If I knew it → *Did I know it

If we had known you were in the hospital, we would have visited you.

(もし君が入院していると知っていたら、私たちはお見舞いに行ったのに。)

► Had we known you were in the hospital, we would have visited you.

2. 「エアコンを夜じゅうつけっぱなしにして寝るのは身体によくない」

► with the air conditioning onは付帯状況のwithの用法である。意味上の主語がthe air conditioning、意味上の述部が副詞のon「ついている」である。

付帯状況のwith

「with+A(名詞)+分詞」の形で「Aを～(の状態に)して」という意味を表す。このような表現を『付帯状況のwith構文』という。

Aと分詞の関係が能動なら現在分詞(doing)、受動なら過去分詞(done)を用いる。

with her hair waving 「髪をなびかせて」 [with+A+現在分詞]

with his arms folded 「腕を組んで/腕組みをして」 [with+A+過去分詞]

補足 分詞の代わりに形容詞、副詞、場所を示す句などを用いて付帯状況を表すこともある。

with your mouth full 「口に食べ物をほおばって」 [形容詞]

with her socks on 「靴下をはいて[はいたまま]」 [副詞]

with tears in her eyes 「目に涙を浮かべて」 [場所を示す句]

3. 「私はこの会社に入ったことを後悔している。私たちはいつも遅くまで働かなければならない」

► regretは動名詞を目的語に取って、regret doing「～したことを後悔する」となる。(A)はjoinが受動態になっているので不可。regret to doは「残念ながら～する」という意味で、過去のことについてはこの形は用いない。

□ regret doing 「～したことを後悔する」

I regret rejecting your offer.

(私はあなたの申し出を断ったことを後悔しています。)

□ regret to do 「残念ながら～する」 (= be sorry to do)

I regret to say that we must reject your offer.

(残念ながら、あなたの申し出をお断りしなければなりません。)

4. 「ロバートは昼食を10分前に食べたが、しかしこれまだお腹が空いている。彼はサンドイッチを作るつもりだ」

► 10分前に食べたということと、お腹が空いているということは逆の内容なので、逆接の接続詞であるyet「しかし」を入れる。

■接続詞yet「けれども、しかし、それにもかかわらず」

前述の内容に対照的な事柄を導入するために用いられる。but, howeverより対比の意がやや強い。しばしば、(al)thoughで始まる従属節で示された対照をさら

に強めるために主節で用いられる。

He was angry, **yet** he listened to me patiently.

(彼は怒っていたが、それでも私の言うことには辛抱して耳を傾けた。)

Although she had not eaten for days, **yet** she looked healthy.

(彼女は何日も食べていなかったが、それでも健康そうに見えた。)

5. 「私の姉は去年名古屋ウィメンズマラソンを3時間からずに完走した」

▶ last year 「昨年」という過去を表す言葉があるので過去形を選ぶ。

□ **less than** ~「[数詞を伴って]~より少ない」(↔ more than)

 less than ten dollars(10ドルに満たない)

6. 「エイミーは通りの角に住んでいる」

▶ end 「端、角」には『場所・時の一点』を表す前置詞atを用いる。

7. 「ジャック、君には失望したよ。だれがそんな話をしたとしても信じてはいけなかっただよ」

▶ no matter whoはwhoever 「誰が～しても」と同じ意味で、譲歩を表す。これに続く動詞にはmayがつかか、助動詞は何もつかないかのいずれか。

■副詞節を導くno matter who 「誰が～しても」 (= whoever)

No matter who **may** come to the door, tell them I am out.

(= Whoever **may** come to the door, tell them I am out.)

(たとえ誰が玄関にやって来ても、私は外出していると言ってくれ。)

▶ 『譲歩』の副詞節を導くwhoeverはno matter whoに書き換え可能。

▶ 『譲歩』を表す場合、助動詞mayが用いられることがある。ただし、これは文語的な言い方。

□ **should not have done** 「～すべきではなかったのに」 (= ought not to have done)

We **should not have turned** left at the last corner.

(先ほどの角を左に曲がるべきではなかったのに。)

8. 「その事故がどうして起こったのかはわかっていない」

▶ () the accident happened 全体がisの主語となるのは疑問詞のwhyのみ。
although, sinceは接続詞なので、この部分を名詞節にして主語にすることはできない。

9. 「エベレスト山に登りたいと思うことと、実際に登ることとはまったく別だ」

▶ A is one thing, B is another (thing). 「AとBは別のものである」の構文。これに形式主語のitが用いられた文となっている。

□ **A is one thing, (and) B is another (thing)** 「AとBは別のものである」 慣用表現

Making promises is one thing, keeping them another.

(約束をすることと、約束を守ることは全く別のことだ。)

10. 「東京から来たあの男のメールアドレスを昨夜聞いておけばよかった」

▶ wishはthat節の中の動詞に仮定法をとる。last night 「昨夜」より、過去の話であるので過去完了にする。

□ **wish + 仮定法過去完了** 「～ならよかったのに(と思う)」

I **wish** I hadn't bought such an expensive bag.

(あんな高いバッグを買わなければよかったなあ。)

▶ **wish**の後では必ず仮定法が用いられ、現在形は使われない

 × I **wish** I know her telephone number.

 ○ I **wish** I knew her telephone number.

(彼女の電話番号を知っていればなあ。)

11. 「マリオは1回で運転免許の試験に合格した」

▶ on one's first attempt 「一回で」

12. 「私の両親は私が夜遅くまで外出することを許してくれない」

▶ 空欄の後のofに接続できるのはapproveである。approve of ~ 「～を認める」

- ▶ ここでの meは動名詞beingの意味上の主語であり、myに置き換えててもよい。ちなみに、forgiveはforgive A for Bで「AをBに関して許す」という意味になる。
- ▶ (A)admit 「～を認める」,(B)forgive 「～を許す」,(D)recognize 「～を見分ける」
- **approve of ~ 「～に賛成する」** (\Leftrightarrow **disapprove of ~ 「～に賛成しない」**)
 - I don't approve of the habit of turning wild animals into pets.
(野生の動物をペットにする習慣はよくないと思う。)
- 13. 「今夜、名古屋地方では強い風と激しい雨が予想される」
 - ▶ 「激しい雨」と rainを修飾するのに適切な形容詞は heavyである。
- 14. 「駅の周りにはたくさんのホテルがある。だから部屋を予約しておく必要はないと思うよ」
 - ▶ 「予約する」は make a reservationという。
 - ▶ plenty of ~で「たくさんの(= a lot of ~)」の意味で、『数』にも『量』にも用いられる。
 - **make a reservation 「(列車・ホテル・劇場など)予約する」**
 - I'd like to make a reservation for the express train that leaves at 6 p.m.
(午後6時に出発する急行列車の予約をしたい。)
 - cf. **reserve ~ 「(列車・ホテル・劇場など)～を予約する」** (= book ~)
 - make an appointment 「(医院・美容院など)予約する」**
- 15. 「夏にエジプトへ旅行するつもりですが、その文化をあまりよく知らないのです」
 - ▶ 空欄の後の withに接続するのは(C)である。be familiar with ~「(物事)をよく知っている/～に精通している」ちなみに(B)は、be accustomed to ~「～に慣れている」で前置詞は toである。
 - **be familiar with ~ 「(物事)をよく知っている/～に精通している」**
 - Are you familiar with the rules of golf?
(ゴルフのルールを知っていますか。)
 - ▶ A(人) is familiar with B(物事)=B is familiar to Aの関係に注意。
I am familiar with this machine. (私はこの機械をよく知っている)
= This machine is familiar to me.
 - cf. **be accustomed to doing 「～することに慣れている」** (= be used to doing)
 - ▶ この toは **前置詞**なので、後には必ず **名詞**か **動名詞**がくることに注意。
- 16. 「天気が悪かったために開会式にはほんのわずかな人しか出席しなかった」
 - ▶ 前置詞 ofがあるので、fewは使えない。fewを用いるなら only a few peopleとならねばならない。a handful of people「一握りの人、わずかな人」
 - **a handful of ~ 「少数の～/ひと握りの量」**
 - ▶ 通例 only, justと共に用いて否定的な意味で用いる。
Only a handful of people came to the party.
(パーティに来たのはほんの数える程だった。)
 - cf. **only a few + 可算名詞 [複数形] 「ほとんど～ない」** [否定的]
- 17. 「私はお金に関してはとても慎重です。私は1週間に5000円使うだけでやっていけます」
 - ▶ get byで「やっていく」という意味。(B)の manageを用いるなら spendingを spendにする必要がある。
 - **get by 「(なんとか)通り抜ける/なんとか暮らす」**
 - (I'm) just getting by.
((近況を尋ねられて)なんとかやっています。)
- 18. 「メアリーは昨日自転車で転んで足を怪我したが、幸いなことに怪我はたいしたことではなかった」
 - ▶ injury「怪我」にふさわしい形容詞は seriousである。fortunately「幸いなことに」
- 19. 「シャツのボタンが取れそうですよ。直してあげましょうか」
 - ▶ 「ボタンが取れる」の「取れる」に相当する英語は come offである。
 - ▶ (A)leave off 「やめる」,(B)put off ~「～を延期する」,(C)take off 「(飛行機などが)

離陸する/(衣類・靴など)を脱ぐ」

□ **be about to do** 「まさに[今にも]～しようとしている」

The soccer game is *about to start*.

(サッカーの試合が始まろうとしている。)

▶ **be (just) going to do** よりも差し迫った未来を表す。

▶ **be on the point of doing** とほぼ同意。

We were *on the point of giving up the game*.

(私たちはその試合を今にもあきらめようとしていた。)

□ **come off** 「(取っ手・ボタンなどが)とれる/(馬・自転車などから)落ちる」

20. 「サッカー選手たちのちょっとした口論がまたたく間にひどい喧嘩になった」

▶ 空欄の後の前置詞intoに接続して不自然でないのは(B)である。

□ **A turn into B** 「AがBになる」

The rain *turned into* snow last night.

(昨晩、雨は雪に変わりました。)

cf. **turn A into B** 「AをBに変える/A(言語)をB(別の言語)に翻訳する」

Turn this sentence into English.

(この文を英語に訳しなさい。)